

Q 家庭でスマホのルールづくりを

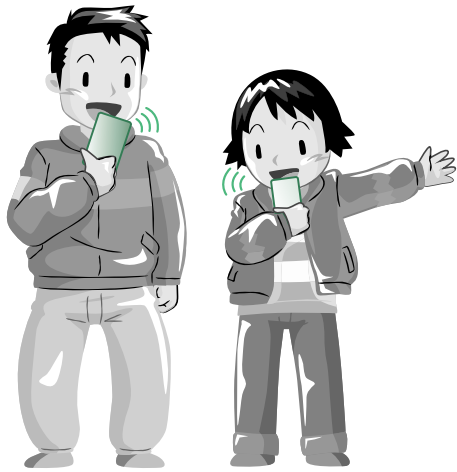
やまなか
山中 基充 議員



A 家庭でのルールづくりの必要性を啓発していく

問 江戸川区教育委員会は、スマホ活用の「江戸川っ子、家庭ルールづくり」を実施している。学校で事前指導し、生徒同士で話し合い、自己分析をし、ワークシートを活用しながら、「夜9時になったら親にスマホを預ける」といったルールを家庭で作成、学校と共有し、家庭で達成状況などを振り返りながら学校にも報告している。

答 学校側から押しつけず、生徒の主体性を尊重するスマホの家庭ルールづくりに取り組むべきでは。平成29年7月の市内の抽出調査では、SNS利用によるいじめやトラブル等は、小学6年生で7・9割、中学2年生で15・3割である。また、携帯電話等の使用のルールを決めている家庭は、約68%である。今後、家庭におけるル



ールの具体例を示すなどし、保護者へのルールづくりの必要性の啓発を進めていく。

問 多くの児童・生徒は、LINEをするため、スマホのフィルタリングをしていない。監視アプリを提供するべきではないか。

答 研究をしていきたい。

◎その他の質問

- 一 代読代筆の講習と支援員育成
- 二 地域建設業経営強化融資制度
- 三 介護や障害計画での高次脳機能障害の位置付けについて

Q 市政運営の基本姿勢について

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



A 議会と協力して重要課題に臨む

問 市の課題が山積している中で、これまでのような議会対応では、市の重要課題の解決は困難であると考えますが、新市長の議会対応の考えについて。

答 市の重要課題の解決のためには、議会とは、一歩踏み込んだ意見交換が必要であるので、意見を交わしていける場を設けていただくことを期待する。

問 本市の職員数は県内類似市と比べて非常に多く、市民サービスの向上には職員数の削減が急務であると指摘してきた。新市長は、職員の定数管理をどのように考えているか。

答 市民サービスの充実には、職員数をもっと必要になる部分もある。業務量を把握し、定員管理にしっかりと取り組んでいく。

問 人口減少対策が自治体の最重要課題であるといわれているが、本市は年少人口が激減している。子育て支援策として鶴ヶ島版ネウボラという施策を実施しているが、その効果をどのように考えているか。

答 鶴ヶ島版ネウボラは、子育て家庭に対する支援という視点で実施しているもので、人口流入に対して効果があるのかということについては、まだ分析できていない。

